

# Habitat Japan Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

Vol. 42  
December 2019





19年7月 - 9月  
ボランティア派遣実績

8 カ国

39 チーム

709 ボランティア

「グローバル・ビレッジ(GV: Global Village)」プログラムは、ボランティアがチームを編成し、ハビタットが住居建築を行う支援地に赴き、ホームオーナーとなる家族と共に、家の建築や修繕に参加する海外建築ボランティアプログラムです。今夏、大学生を中心にして7月から9月の3ヶ月間で、総勢700名を超えるボランティアがアジア太平洋地域内の全8カ国にわたり、家の建築に参加しました。その一つが、チーム「Step to Peace (STP)」です。ハビタットの学生支部(キャンパスチャプター)が集う合同研修の場で、STPの企画が立ち上がりました。若者によるハビタットの取り組みを全国の学生に広め、GVの機会を通して、一人でも多くの若者が国際協力に一歩を踏み出せる、そんな環境を作りたいというキャンパスチャプターの思いが企画に込められています。立案から1年後の2012年、一般学生を巻き込みSTPがGVに初めて参加。以来、年に一度STPチームが発足され、GVに参加しています。

**Step to Peaceとは:** キャンパスチャプターが年に一度企画する、一般の学生を広く対象としたGVチームです。今年の夏は、総勢70名がカンボジアを訪問、6軒の家建築に参加しました。通常GVは12名から20名程度のチームで参加するボランティアプログラム。これだけの人数を全国から集めることに加え、初めて会う学生たちをチームとしてまとめ上げるのは大変なことです。STPを実現するために、この夏は、全国のキャンパスチャプターから総勢15名のメンバーが企画の代表を務めたそうです。そして、55名もの一般学生を集めることができたのは、キャンパスチャプターならではの強みです。全国に広がるキャンパスチャプターのネットワークを生かして、STPチームは約半年かけて、SNSを通じて情報の発信を行うほか、各地域の代表メンバーが地域ごとに説明会を開催。昨年は北海道、関東、関西、九州で合計15回近く説明会の場を設けたそうです。

**STPが大切にすること:** 今夏総代表を務めた庄司さんは「居場所を作ること」の大切さを話してくれました。STPの言葉に込められた一歩を踏み出す場となれるよう、メンバーの意見に耳を傾け、一人ひとりがGVを通じ、見て感じたことを真剣に伝えられる場づくりを心掛けてきたそうです。「今まで自分の殻を破ることができなかっただけれど、STPへの参加を通して変わることが

できた」この声は、今夏の参加者の一人が発してくれた言葉だそうです。

**強靭なサポーター:** STP参加後に、チャプター設立に向けて後押しとなるのが、他大学にあるキャンパスチャプターの存在です。日頃から大学の垣根を越えたつながりがあるからこそ、チャプター設立にあたりサポートすることができる上、チャプターとしての魅力を伝えることができます。そして、STP企画立案時の思いに込められた通り、STP参加後に、自身の大学にキャンパスチャプターを立ち上げるメンバーが増え、ハビタットの活動は全国に広がりを見せています。

**更なる成長:** STPチームで代表メンバーを務めたチャプターメンバーにとっては、STPが成長の場にも繋がっています。出身も所属も異なるメンバーを一つのチームにまとめ上げる経験は自らへの自信となり、STPチームの解散後に、所属するチャプターで代表を務めるリーダーが多く輩出されています。

**国際強力に参加し、自己成長につながるGVを築けるのは日本の若者の強みです。**現在ハビタット・ジャパンはアメリカに次ぐ世界第2のボランティア派遣国。日本の若者によるGVへの参加は住まいを必要とする家族にとって欠かせない存在となっています。



ユースプログラムでは、ハビタットの学生支部として活動する学生団体(キャンパスチャプター)に、グローバル・ビレッジをはじめ、ハビタットによる国内外での活動に参加する機会を提供しています。加えて、企業によるサポートを受け、さまざまな研修を開催し若者の育成に取り組んでいます。

ユースの活動を長年サポートしてくださる企業の一つがゴールドマン・サックスです。社会貢献を担う未来のリーダー育成をテーマに、毎年同社の社員ボランティア「コミュニティ・チームワークス(CTW)」にご協力いただき全国のキャンパスチャプターを集めユース育成研修を実施しています。また、2015年からは、全国のキャンパスチャプターを対象にハビタット・ジャパンが開催する2日間の合同研修にご支援をお寄せ頂いています。



### 6月と7月に開催: CTWボランティアと協働でユース育成研修



6月2日、そして7月6日の2回にわたり、全国から集まつた118名の学生を対象にユースリーダー研修をゴールドマン・サックスのオフィスにて開催しました。総勢28名のCTWボランティアの皆さんにファシリテーターを務めていただきながら、キャンパスチャプターとしてどのように取り組めるかをチームで議論し合い、考えをまとめプレゼンするスキルを身に付ける研修となりました。

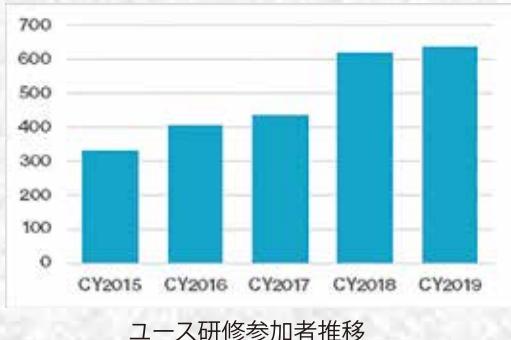
#### VOICE

ゴールドマン・サックス  
コーポレート・エンゲージメント  
麻崎 久美子さん

「社員のスキルを生かしたユース研修が、キャンパスチャプターの組織基盤の強化と成長、そしてボランティアの扱い手を増やす一助に繋がっていることを見ることができ、大変意義深い活動だと感じています」

## 2433 名

のチャプター学生がゴールドマン・サックスによる支援のもとユース研修に参加(CY2015年以降)



ユース研修参加者推移

## 15 大学キャンパス

に新たにキャンパスチャプターが誕生(FY2015年以降)



キャンパスチャプター数推移

## 19 都道府県

でキャンパスチャプターが活動中



キャンパスチャプター地域別割合



**Goldman  
Sachs**  
*Gives*

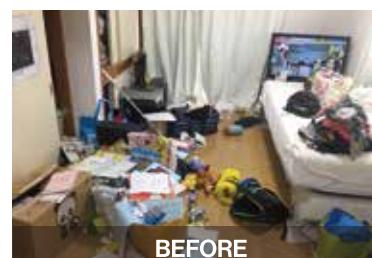


### ひとり親家庭への支援を展開

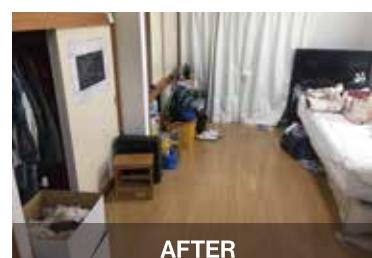
都内を中心に居住環境の改善に取り組む国内居住支援「プロジェクトホームワークス」では、高齢者総合支援センターや地域の保健センターなどからの相談に加え、昨今では子ども家庭支援センターからも相談を頂き、お子さんを抱えるひとり親世帯への支援にも取り組んでいます。

ブルームバーグの社員ボランティアによるご協力のもと支援に伺った佐藤さん（仮名）はひとり親家庭です。片付けが苦手と話す通り、室内には、お子さんの玩具や作品などの紙類、またご本人の雑貨や服などが収納棚からあふれ出し、床にまで広がっていました。子どもが片付けの習慣を身につけられないまま成長してしまうのではないか、そんな不安を抱えながらどこにも相談できずに悩みを抱えていたそうです。

ひとり親家庭への支援制度は整備されつつありますが、外に働きでられていて、子どもの様子に問題がなければ、家庭に問題があるのではと想像する人は少ないでしょう。その上、外からでは見えづらい居室の環境は、問題を抱えている人自身が外に発信しない限り、周りに気づかれにくく、支援の手が届きにくい状態に陥ってしまいます。



BEFORE



AFTER



佐藤さんのお宅は物が多く散乱していましたが、ゴミはきちんと捨てられており、不衛生さは一切ありませんでした。しかしその状態を放っておけば、居室内の環境は次第に悪化し、衛生状態や安全性が損なわれる可能性は否めません。

ハビタットでは、佐藤さんのようなひとり親世帯や若い世代の方たちで、住まいに関する困りごとを抱えている方たちに相談できる場があること、そしてそうした家庭を支援する公的援助があることを伝えていけるよう、関係機関と協力しながら活動を広めてまいります。

**Bloomberg**



### 児童養護施設で修繕支援を実施

プロジェクトホームワークスの取り組みの一環として、一時的な住まいを提供するシェルターや、児童養護施設での修繕支援にも取り組んでいます。

10月5日、バンクオブアメリカのご協力のもと、都内の児童養護施設「バット博士記念ホーム」での修繕支援に取り組みました。このホームには、親の離婚や病気、また虐待や不適切な養育を受けているなどさまざまな事情により、家族と暮らすことのできない約2歳から18歳の子どもたちが暮らしています。そこは、子どもたちにとって、日々の活力を養い、健全な未来を築く基盤となる『家』です。

バンクオブアメリカがバット博士記念ホームの修繕活動にご支援くださるのは4年目となります。修繕費用のご支援に加え、当日は、同社から14名のボランティアが参加くださいました。1957年に建てられたホームは、丁寧に利用されてきましたが、老朽化に伴い、修繕を必要とする箇所が毎年でできます。今年は子どもたちが食事をとるダイニングホールの壁をペンキで塗りなおしました。このダイニングホールは食事をするだけではなく、ピアノが置かれていて、子どもたちが音楽を楽しんだり、遊んだりと、子どもたちの生活に欠かせない場所です。



ボランティアの中には、今年で2年目、あるいは3年目の参加ですという方がいらっしゃり、慣れた手つきで、ペンキ塗りを行いました。また別のチームは、子どもたちの日中の遊び場となる中庭に新しい芝生を張り替える作業をお手伝いくださいました。ボランティアが作業していると「何しているの?僕もやっていい?」と集まってくる子どもたち。ボランティアの皆さんは、「一緒に芝生にお水をあげてくれる?」と子どもたちに優しく声をかけながら活動していました。

こうした修繕活動も、大切な活動の一つです。この活動にご支援を続けてくださるバンクオブアメリカの皆さんに感謝申し上げます。

**BANK OF AMERICA**



## チャリティガラ「ホームカミング」開催(11/1)

11月1日(金)、都内のホテルにてチャリティガラ「ホームカミング」を開催いたしました。インドのヒンドゥー教のお祝い「Diwali(ディワリ)」をテーマに、今もなお、7300万もの家族がきちんとした住まいを必要とするイン

ドへの支援を呼びかけました。ハビタット・フォー・ヒューマニティのアジア太平洋地域統括担当をはじめ、インドの事務局長が来日したほか、サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使にもご臨席いただき、インド政府が掲げる住宅政策についてのお話を頂きました。企業パートナーをはじめ、サポートーやそのご友人など、130名近くの方にご参加いただき、インドの伝統楽器による演奏や踊りを楽しみながら、オークションや抽選会を通じてチャリティにご参加いただく一夜となりました。本イベントはインドのアディティア・ビルラ・グループをはじめ抽選会やオークションにアイテムをご寄付くださった企業や個人の皆さんにより実現できました。ご協力くださった皆さん、ありがとうございました。

ハビタット・フォー・ヒューマニティ  
アジア太平洋地域統括  
リック・ハサウェイ氏



チャリティオークションを実施



ミス・ワールド元日本代表の吉川アリアンカさんによる  
企業パートナーへの感謝状贈呈

## インド・ケララの家族に住まいを! インドの洪水被災者を支援「Food for the Soul」キャンペーン



2018年の夏に発生したインド南部ケララ州の洪水被災者を支援するため、5つのインドレストランと協働で「Food for the Soul」キャンペーンを実施しました。チャリティの対象として特別に用意されたメニューを期間中お食事いただくと、その売り上げの一部が寄付されるという仕組みです。本キャンペーンを通じて、合計293,000円のご寄付がレストランから集まりました。今後は、同額をキャンペーンに賛同くださるインド企業の皆さんからご寄付いただき、計2世帯が暮らす住まいの修繕を予定しています。キャンペーンにご協力くださった皆さん、ありがとうございました。



## カンボジア: ホームオーナーストーリー



2018年11月に開催したハビタット・ジャパン設立15周年記念パーティーに際してお寄せいただいたご寄付により、カンボジアで新たに2家族がハビタットのホームオーナーとなりました。

そのお一人、ヨエンさん一家は、シェムリアップ近郊に暮らす4人家族です。毎月の収入は、夫婦が掛け持ちで働いても月120ドル程度です。そのため、生活は子ども二人を学校に通わせ、家族4人で暮らすのがぎりぎりだそうです。住まいは、構造自体が脆い上に、屋根や壁の所々に隙間が空いていました。トイレも安心して利用できる状態ではなく、雨や風が強い日には、眠ることすらできない不安定な暮らしだったそうです。

ハビタットの活動を知り、支援を要請したヨエンさん。ハビタットは、家とトイレの建築にあわせ、生計を立て直すためのスキルトレーニングや衛生トレーニングを実施しました。「家が持てるなんて夢みたい。これからは前を見て生活ができるわ」そう話すヨエンさんの笑顔は希望に満ち溢れています。

## スタッフ紹介

### 国内居住支援プログラム「プロジェクトホームワークス」 支援コーディネーター 笠江 菜生(かさえ なお)

プロジェクトホームワークス(PHW: Project HomeWorks)の支援コーディネーターとして、この4月より笠江菜生が入職しました。プロジェクトホームワークスの主担当として、入職してから半年、現在では地域の社会福祉関連の団体をはじめ、ハビタットが所属するハウジングファースト東京プロジェクトや居住支援協議会を通じたネットワーク作りに加え、新規案件の下見からボランティアを動員して行う支援の実施までの調整、これまでかかわってきたパートナーの方々への見守り、またハウジングファーストの一員として取り組む住まい探しなど、多岐にわたりハビタットの掲げるビジョンの実現を目指し日々取り組んでいます。青年海外協力隊に参加し、日本から遠く離れたカメルーンに赴任していた経験を持つ彼女の前職は保育士です。保育士から一転、ハビタットの国内プログラム担当として共に活動する笠江より、プログラムに抱く思いを伺いました。

「安心して暮らせる住まい」について考えるほどに、「人とのつながり」の大切さを感じています。PHWを通して、家にものを溜め込んでしまう人、一人で片づけるのが難しい人、ホームレス状態だった人…いろいろな人に出会いました。今まで子どもとの関わりが大きかった私にとって、彼らはどちらかというと遠い存在だったように思います。しかし居室内の片付けをしていると、古い写真や仕事道具が出てきてかつての暮らしぶりが見えてくることで、実はどの人も身近な人であり、ご近所さんや友だち、あるいは近い将来の家族や自分自身であるかもしれないことに気づかされます。また多くの方が、自分で何とかしなくてはと問題を抱え込んでしまう真面目な人であるようにも思います。

PHWでは、外からは見えにくい住まいの困りごとを抱える方を、ボランティアと共に訪れることに大きな意味があると思います。ボランティアの和やかな雰囲気から表情の柔らかくなっていくホームパートナーさんの姿を見ると、自分を気にかけ、手を貸してくれる存在がいることの大切さを感じるとともに、ボランティアにとても彼らを身近に感じるきっかけになると思います。多くの人がつながって「安心して暮らせる住まい」について一緒に考えていけるよう、いろいろな人を巻き込みながら、PHWの活動を地域に根差していきたいです。



#### ▶ マンスリーサポーター募集中

ハビタットは世界各地で住宅の建築や修繕をはじめ、コミュニティの防災や水と衛生問題に取り組んでいます。こうした息の長い活動には、皆さまの継続的なご支援が欠かせません。ハビタットでは、活動にご賛同いただけるマンスリーサポーターを募集しています。マンスリーサポーターは毎月、任意のご希望額を継続的にご寄付いただけるサポート制度です。サポーターに登録し、国内外の取り組みにご参加ください。



#### ▶ オープンボランティアデイのお知らせ

都内を中心に取り組む国内居住支援「プロジェクトホームワークス」は、企業やキャンパスチャプターをはじめ、サポートーの皆さんによるボランティア参加に支えられ、活動を継続することができます。

活動はチーム毎になります。個人のサポートーの皆さんにご参加いただける1月・2月のオープンボランティアデイはこちら:

- 2020年1月11日(土)
- 2020年1月16日(木)
- 2020年2月15日(土)



詳細・登録はホームページをご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

#### ▶ メルマガ登録のお願い

ボランティア情報を含め、毎月の活動をまとめたメールマガジンを月末に発行しています。ホームページよりご登録をお願いいたします。



認定NPO法人  
ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-11-25 アソルティ新宿5丁目301  
TEL 03-6709-8780 FAX 03-6709-8787  
E-Mail info@habitatjp.org URL www.habitatjp.org